

..... 岩本 裕
 摩利支天陀羅尼の梵本..... 足利 惇氏
 菩提心法者としてのアティーンシャ

..... 羽田野伯猷

三種の梵語叢..... 酒井 眞典

祕密集會タントラ成立に關する二、

三の問題..... 松長 有慶

以上、各方面に貴重な資料あり、犀利な論文あり、價值多き記念論文集である。

なお本書には、中野博士の年譜ならびに主要著作目録を附している。

(A5版・六百十八頁―高野山大學
 内中野教授古稀記念會發行)

(白土)

無量壽經諸異本の研究

藺田 香勳 著

本書は著者の親友森氏の暗示的な研究を、更に獨自の立場から本經諸異本の比較検討に取り組み、「梅原勸學古稀記念論文集」(昭・三〇・十一月刊)所收の論文と、「顯眞學苑論集」第四八・四九號(昭三一・十一月、三三・四月刊)に連載の「補遺」に追補と訂正を加え、先

を本論とし、後を補遺として公刊されたものである。著者は獨逸文學の研究者でありながら、その研究態度は至つて堅實である。即ち願數、配列、譯語、出沒、系列、組織などの外面からの觀察と、生因、十念、自然、胎化、悲化などの内面からの討究とを表裏として周到を期し、なお文學研究に養われた清新な眼を以て在來の研究に對する鋭い批判が隨處にみられている。

先ず本論に於ては無量壽經の五漢譯・一梵本・一藏本の現存七異本を種々の角度より比較對照して、この經典の二十四願經↓三十六願經↓四十八願經という發展経路の跡附けを試み從來動もすると疎外せられていた三十六願の莊嚴經が二十四願系の經典と四十八願系の經典との中間の媒介となり、展開契機となつてゐるものであるとし、四十八願經の内にて特に魏譯を以て本經典の頂點に位置せしめてゐる。

補遺に於ては更に自然、胎化、悲化などの問題を軸として本論の遺を補つてある。本書は先に公刊の池本重臣氏著「大無量壽經の教理史的研究」と併讀すると

き著者の意圖が明確に知られると共に、こうした七種の異本を統括して、有機的體系を整備されてあるが如き畫期的研究は宗學研究の上に新たな分野を開くものといえよう。

(三五年八月刊・A5・二六三

頁價六〇〇圓・永田文昌堂)

(白井)